

17. 外科医労働環境改善委員会

委員長 馬場 秀夫

1. 特定行為に係る看護師の研修制度について

本委員会では、外科医の労働環境改善の抜本的な方策の一つとして、医師と看護師の中間職種（NP、PA）創設をめざしてきた。その一歩として「特定行為に係る看護師の研修制度」（特定行為：21区分38行為）の法制化が成立し、平成27年10月より開始され、平成31年2月現在、39都道府県113機関が指定研修機関と指定されており、平成30年9月末現在、1,205名の修了者がいる（詳細は以下厚生労働省のURLより確認。 <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000087753.html>）。

厚生労働省は、現在実施している特定行為に関する実態調査の結果を踏まえて、平成29年秋頃より、特定行為、特定行為区分や特定行為研修の基準等の具体策の検討を始めており、平成31年を目途に取りまとめる予定となっている。この制度の普及促進のため、8月31日に理事長とともに厚生労働大臣宛に「外科医の労働時間短縮のための制度創設の要望」を提出した（<https://www.jssoc.or.jp/other/info/info20180830.html>）。また、「第9回医師の働き方改革に関する検討会」（9月3日開催）において、理事長とともに、外科医の労働環境について参考人として発言した。

2. 特定行為に係る看護師の研修制度の見直しに伴う外科などの領域のパッケージ化について

「医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会」（9月28日開催）において、特定行為に係る看護師の研修制度の見直しが始まり、その研修内容の見直しでは、“領域ごとにコース設定されている例や区分をまとめて研修する。”“現場で活用しやすい領域については頻度の高い特定行為をパッケージ化し、研修を受講しやすくする。”“厚労省は具体的に、在宅、慢性期、外科、周術期管理などの領域をパッケージ化することなどが提案された。そこで、厚生労働行政推進調査事業補助金（研究課題：外科領域における抜本的なタスクシフティングの手法についての研究）（馬場班）と合同で検討し、外科術後病棟管理領域についてのパッケージ化案を提案した。そして、「医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会」（12月6日開催）において、パッケージ化案が承認され、「特定行為研修の研修内容等に関する意見」として公表された（https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000073014_00001.html）。

次に、各病院で既に活用されているクリニカルパスと、既に厚生労働省より発行されている「特定行為に係る手順書例集」を活用し、外科術後病棟管理領域としてパッケージ化された特定行為を包括的に運用するための手順書（案）を作成した。

「第16回医師の働き方改革に関する検討会」（1月11日開催）において、「特定行為に係る業務については、タイムスタディ調査等によると、全体の約3%程度、外科系医師に限れば約7%程度の業務時間に相当し、週100時間勤務の外科系医師の場合、週7時間程度の時間がこれに相当する」、「パッケージ研修修了者数について、令和5（2023）年度末までに1万人の養成を目指す」とあり、外科医の労働時間短縮のためにはこのタスクシフティングの重要性が改めて提示された。この目標を達成するためには今後、大学病院等の特定機能病院等が特定行為の指定研修機関になることが大変重要であり、そのため、指定研修機関になるための手順や方法などについて第119回定期学術集会において（4月20日（土）12：00～13：00）説明会（アナウンスメント）を開催するので、ぜひご参加のうえ、先生方の病院が指定研修機関として申

請して頂きたい。

3. 各施設におけるタスクシフティングの現状調査のアンケートについて

タスクシフティングの普及に関しては、現状把握が大変重要であると認識し、日本心臓血管外科学会、日本消化器外科学会およびNCD事務局と連携し、関連施設を対象にタスクシフティングに関するwebアンケート調査をNCDのシステムを利用して実施した（回収率：1,498 診療科/3,291 診療科（45.5%））。

アンケートにご協力いただいた先生方に厚く感謝申し上げます。

術後管理包括指示書作成手順（案）

- 医師の指示のもと、原則各施設の疾患毎のクリニカルパスに沿って、「外科術後病棟管理領域」パッケージの特定行為研修を修了した看護師が特定行為を実施可能とする。
- クリニカルパスの各項目について院内の該当する委員会等で検討を行い、特定行為研修を修了した看護師が医師の指示のもと施行できる術後管理項目をクリニカルパスに明記する。
- 特定行為を修了した看護師が、平成 27 年度 看護職員確保対策特別事業「特定行為に係る手順書例集作成事業」特定行為に係る手順書例集の手順書等を参考にしてクリニカルパスに記載した項目を実施することとする。
- 施行した内容は、日付、指示した医師名、施行した看護師名をカルテに漏れなく記載する。
- 術後管理に関する行為実施の中で、ドレーン抜去や食事の開始など医師の判断が必要とされる場合は、その都度担当医に確認することとする。
- クリニカルパスが無い施設においては、特定行為研修を修了した看護師が医師の指示のもと施行できる術後管理行為を明記し、院内の該当する委員会等で検討した後に行うこととする。

【区分別科目：外科術後病棟管理領域】

特定行為区分	特定行為	改正前 時間数	改正後 時間数
1 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	22	9 + 5症例
2 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	63	17 + 5 × 2症例
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
	人工呼吸器からの離脱		
3 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換	21	8 + 5症例
6 胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更	30	13 + 5 × 2症例
	胸腔ドレーンの抜去		
7 腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿（セン）刺針の抜針を含む。）	21	8 + 5症例
9 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	中心静脈カテーテルの抜去	18	7 + 5症例
10 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	21	8 + 5症例
12 創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	15	5 + 5症例
13 動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	30	8 + 5症例
	橈骨動脈ラインの確保		
15 栄養及び水分管理に係る薬剤投与	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	36	10 + 5症例
	脱水症状に対する輸液による補正		
18 術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	21	8 + 5症例
19 循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	60	14 + 5 × 2症例
	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整		
	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整		
	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整		
	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整		
合計時間（共通科目 + 区分別科目）		673時間 (100%)	365 (54%) + 各5症例

手順書：腹腔ドレーンの抜去（手術時に留置したドレーンの抜去）

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. 術後の腹腔ドレーンである
2. バイタルが安定している
3. 手術後3日以上経っている



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 排泄物の性状が漿液性である
- 排泄物の量が減少した
- 刺入部に出血、変色を認めない
- 腹痛が増悪していない

病状の
範囲外

不安定
緊急性あり

担当医師の携
帯電話に直接
連絡

病状の
範囲内

安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

腹腔ドレーンの抜去



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 排泄物の性状が漿液性でない
- 排泄物量増加
- 刺入部の出血・変色
- 腹痛の増悪

どれか一項目でもあれば、下記の確認をして担当医に連絡

- 排泄物の性状（血性？消化液？）
- ドレーンの位置（深さ）

担当医師の携
帯電話に直接
連絡



【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

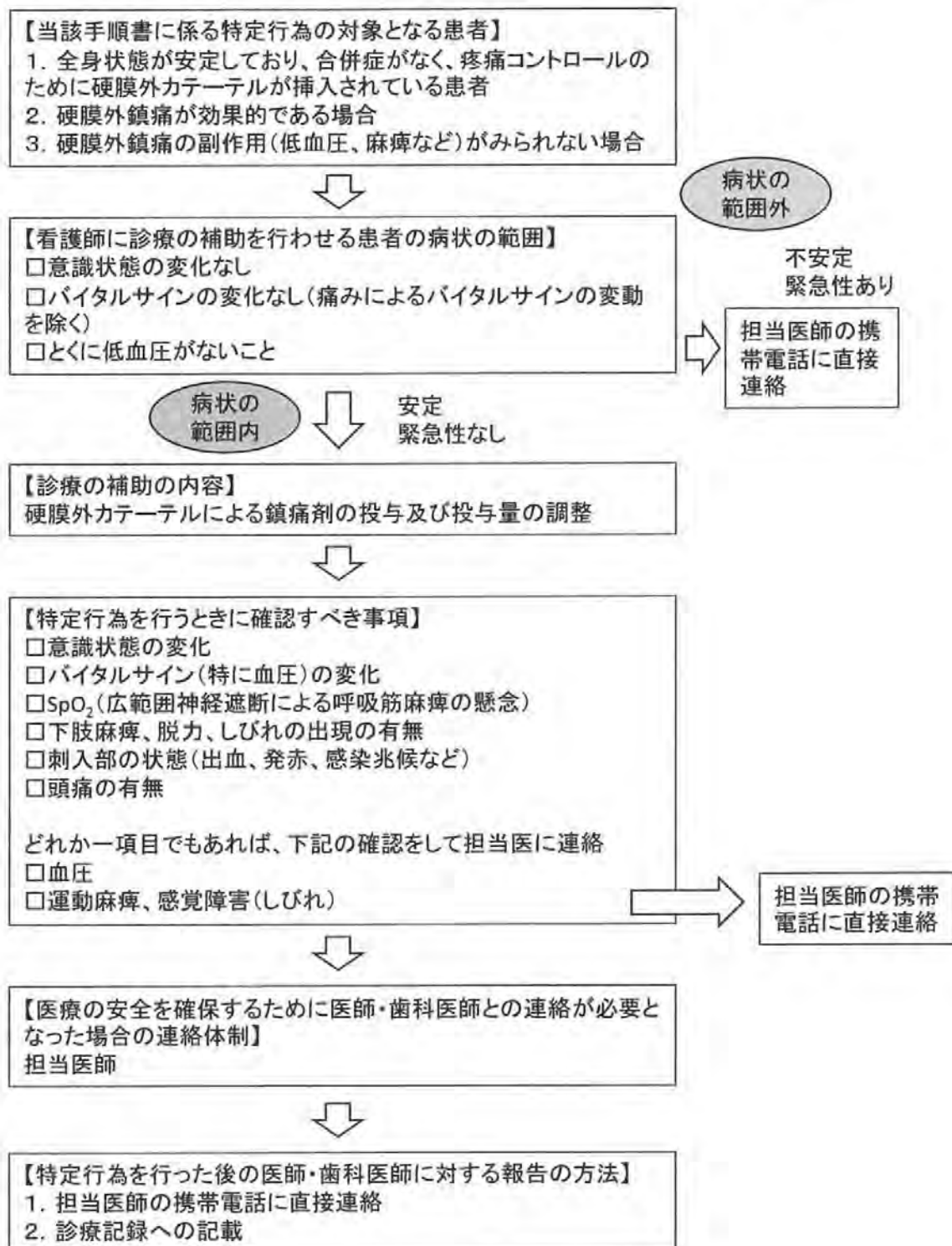
担当医師



【特定行為を行った後の医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の携帯電話に直接連絡
2. 診療記録への記載

手順書:硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整



18. 男女共同参画委員会

委員長 中 村 清 吾

本委員会は、本会の将来計画委員会内に設置された「アクションプランワーキンググループ」でまとめた「女性外科医の会」（仮称）の発足を目指して、支援するために女性外科医支援委員会として新設された経緯がある。その経過において平成 21 年 11 月 20 日に「日本女性外科医会」（英語名：Japan Association of Women Surgeons (JAWS)）が発足した。その後、本委員会は、日本女性外科医会に対し本会の連絡窓口として、また同会の支援を旨として引き続き継続されて 9 年目となる。平成 26 年度より本委員会名称を男女共同参画委員会に変更し新たに活動を始めた。

平成 30 年度においては、次年度実施に向けた各種アンケートの検討をした。

また、「女性医師・研究者の妊娠・出産に対する意識とその実態に関するアンケート」を実施し、アンケート結果をサージカルフォーラム（男女共同参画）で発表予定である（対象数 3,570、回答数：1,068、回答率 29.9%）。

アンケートにご協力いただいた先生方の関係者を含めて厚く感謝申し上げる。

そのほか、平成 28 年 1 月発刊の「日本外科学会雑誌」から毎号（隔月：年 6 巻発刊）の企画の一つを担当することに伴い、121 巻 1～6 号の執筆者の決定をした。

19. CST 推進委員会

委員長 伊 達 洋 至

1. 審査

平成 30 年度は 15 大学から計 130 コースの申請があった。8 月 31 日に第 1 回委員会、翌年 1 月 11 日に第 2 回委員会を開催し、審査を行った結果、9 大学の計 49 コースは承認としたが、9 大学の各コースに提出書類の不備等があったため、いずれも修正の上で再提出を求めた。

2. CST 報告システム

報告はこれまで紙媒体で行っていたが、報告書の記入者や、審議する委員の負担を減らすため、CST 報告書システムを平成 30 年 5 月にリリースした。現在は順調に運用中である。

3. 厚生労働科学研究費

平成 30 年度も前年度と同じ研究員で厚生労働科学研究班の組織を結成し、3 年計画として申請したところ、採択されたので、本委員会と同日に班会議を 2 回開催した。研究のメインは CST の海外調査とガイドラインの Q&A 作成であり、班会議の結果と、4 月 20 日（土）に第 119 回日本外科学会定期学術集會内で開催される「CST 推進委員会企画」で発表された内容をまとめて、厚生労働省に報告予定である。なお、3 年計画の 2 年目としての継続申請を行った。

4. ガイドライン・利益相反マネジメントの解説・承認研修一覧

「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」『臨床医学の教育及び研究における死体解

割のガイドライン』における利益相反マネジメントの解説」, および承認研修一覧については, ホームページに掲載している。

5. 「実践的な手術手技向上研修事業」の予算増額

平成30年12月に平成31年度厚生労働事業費獲得に向けて, 前年度に予算確保に大変ご協力いただいた富岡勉衆議院議員(正会員)と共に, 平野聡副委員長と七戸俊明委員が, 上野賢一郎財務副大臣, 大口善徳厚生労働副大臣, および永岡桂子文部科学副大臣に平成31年度厚生労働省事業費維持の要望書(166頁)を提出し, 陳情を行った。

平成31年1月の委員会の際に, 厚生労働省の担当官から, 前年度と同額の2億9,500万円が確保されたとの報告を受けた。カダバーサージカルトレーニングを実施する大学を増やすため, 本委員会では更なる周知活動を進めていく。

20. 定款委員会

委員長 渡 邊 昌 彦

理事会からの諮問を受け, 定款および同施行細則の変更案(28頁)を作成し答申したところ, 決議された。そこで, 社員総会にも上程するので, 決議をお願いしたい。

21. 財務委員会

委員長 佐 田 尚 宏

- 平成31年度予算について, 委員会で審議し, 理事会に答申したところ, 答申どおりに決議されたので, 平成31年2月1日からその予算に沿って業務を執行している(資料別添)。
なお, 10月に予定されている消費増税は考慮していない予算となっている。
- 平成30年度財務諸表を作成し, 独立監査人であるEY新日本有限責任監査法人と本会監事の監査を経て理事会に答申したところ, 答申どおりに決議されたので, 定時社員総会に上程する(資料別添)。

22. 情報・広報委員会

委員長 田 口 智 章

1. 会員向けオンラインサービスについて

現在, 会員向けオンラインサービスの登録者数は全会員40,146名のうち約33,755名である。

会員情報検索・修正システム, 外科専門医システム, 学術集会参加履歴登録システム, 各種申請システムなどを運用・管理している。

本年度も引き続き新専門医制度対応のためシステムの構築を行い, 次年度以降も随時対応する予定である。

2. 会員向けオンラインサービスの見直しについて

システムの開発費、保守費、さらに5年毎の更改費が高額であるとの指摘を受け、アドバイザーボードの黒田知宏教授（京都大学医療情報部）、赤澤宏平教授（新潟大学医療情報部）、中島直樹教授（九州大学メディカル・インフォメーションセンター）の指導のもと、競争入札形式での業者選定を進め、候補業者4社を対象に選定を行ったが、時期を急ぐあまり、事前の準備が不十分であったため、各々の提案内容や見積金額に相当の乖離があり、決定には至らず、提案依頼書を見直すなどして、選定を仕切り直すこととした。

しかし、再選定の前に改めて詳細に費用の試算を行ったところ、現在のNTT レゾナント社による専門医関連のシステムの開発・運用が終了するまでは（2022～23年頃の見込み）、現時点で会員管理システムの委託業者だけを見直しても、却って費用が嵩むことが判ったので、委託業者の選定作業は一旦凍結とし、現在の専門医関連のシステムの開発・運用が終了した後に、大幅な費用削減を目指して、改めて会員管理システムと専門医関連システムの委託業者を一括して見直す方針を採ることとした。

委託業者の選定作業を一旦凍結としたことから、来年度は少なくともNTT レゾナント社と契約を継続することになったが、現在の高額な費用を踏襲することはできないので、アドバイザーボードおよび島田英昭委員ならびに事務局の交渉の結果、システムの開発費・保守費、ハードウェアの更改費ともに、可能な限りの費用削減を実現した契約を結んだ。その結果、5年間で約5,000万円の経費削減の見通しとなった。

3. 人工知能活用調査の件

厚生労働省大臣官房厚生科学課よりAIに関するアンケートが依頼されたので、日本内視鏡外科学会の理事長でもある渡邊副理事長に対応を一任した。

4. メールマガジンの件

2005年に配信を開始したメールマガジン（毎月末に配信）は当時から形式を変えていないが、読み難いという指摘が多々あり、速報性も低いため、2019年1月から、必要な事項のみを適宜配信するメールニュースの形式に切り替えることとし、ラクスライトクラウド社のblastmailのサービスを活用することとした。

5. アンケート依頼の件

AMED事業の「患者・消費者向けの医薬品等情報の提供のあり方に関する研究」からアンケート依頼があり、委員長一任で対応することとした。

6. 第30回日本医学会総会2019中部の分科会特別展示の件

過去の理事長講演の内容を盛り込んだパネルを作成した。

23. NCD 連絡委員会

委員長 池田 徳彦

- 1) NCDから「NCD自施設データ利用申請」における外科領域のデータの利用申請について照会を受けた場合は、適宜「可否」を判断して、回答を行っている。
- 2) 平成31年1月1日付でNCD術式の改定が行われたので、従来どおり専門医制度委員会に「外科専門

医修練カリキュラム」などとの紐付け作業を依頼した。

1) 一般社団法人 National Clinical Database (NCD)

代表理事 岩 中 督

National Clinical Database (以下 NCD) は、2010 年に設立され、2011 年 1 月の症例から登録を開始し、事業を開始して 8 年が経過した。2015 年度より、登録を行っている施設会員から会費の支払いをお願いしている。2018 年度からは、未納期間が合計 2 年間（連続・不連続問わず）の施設は、「NCD 施設会員資格」を喪失し、外科専門医制度において基幹施設又は連携施設になれないほか、個人医師による専門医申請の際に当該施設で実施された全症例（2011 年～現在まで）のデータが利用することができなくなる。

外科学会関連で登録された症例数は、2011 年 1,172,511 件、2012 年 1,278,955 件、2013 年 1,567,128 件、2014 年 1,626,805 件、2015 年 1,718,023 件、2016 年 1,784,571 件、2017 年 1,828,056 件、累計 10,976,049 件であった。2018 年分のデータ登録を 2019 年 4 月 10 日で締め切る予定である。2019 年 3 月 1 日時点で過去に完了承認済みを 1 件以上登録した施設診療科数は、4,681 施設・8,168 診療科であり、総ユーザー数は 41,681 人であった。

2018 年度事業報告（案）及び公的研究費一覧、データ利用研究一覧、2019 年度事業計画については、次頁以降を参照のこと。

一般社団法人 National Clinical Database
2018年度事業報告書（案）

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。本年度は、以下の社会事業を実施した。

（1）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- データ入力仕様の要望を加盟学会より受け付け、改訂を行い、収集データの改善を図った。
- ソフトウェア品質を確保しながら効率的な開発及び業務担当者間での共進化を図った。
- 登録症例データを利用した集計・分析結果を確認できるフィードバック機能の充実を図った。
- 追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力率向上に寄与した。
- **DPC**・レセプトデータを利用し、医療の質・効率性の評価・分析研究を実施した。

（2）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 臓器別癌登録データベース基盤の構築に向けて、症例登録システム開発及び運用を行った。
- 日本泌尿器科学会において、基盤となる症例登録システム機能の開発及び運用を行った。
- 日本形成外科学会において、基盤となる症例登録システム機能の開発及び運用を行った。
- 日本病理学会において、剖検輯報データベースの運用及びデータダウンロード機能を追加実装する。病理遠隔診断システム開発を支援した。
- 日本再生医療学会において、再生医療等製品使用データ登録システムの運用設計を支援した。
- **NCD** データ活用環境の構築し、自施設データ利用の運用を見直しつつ、医療品質の評価や改善に寄与した。
- 各領域の研究プロジェクト、学術調査、アニュアルレポートを通じて、臨牀的検討を行った。
- 各領域での **Site-Visit** や **Web-Audit** におけるデータ検証等を支援した。
- 電子カルテシステムに **NCD** 症例アップロード機能を搭載するための情報連携を行った。

（3）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 学会専門医制度等と連携した各種申請システムの維持管理及び開発を継続的に行った。
- 学術団体向けの **DB** 初期開発に関するガイダンス及び **Q&A** 対応を推進した。
- 医療機器等の製造販売後データベース調査における信頼性担保に努めた。
- **NCD** セミナーや各領域の学術総会または手順書などの教育コンテンツを通じて、業務連携に努めた。

（4）法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 施設会費プランの検討、施設会員登録に関する周知活動等。
- セキュリティ保持、知的財産の管理、法・倫理的課題の解決。
- 科学的根拠のもとでの行政との意見交換。研究機関登録の準備等。
- サーバーリプレイス、データセンター運用条件の検討等。

以上

2018年度 NCD公的研究費一覧

(1)AMED

	委託者	監修	内容	委託期間
1	大阪府立急性期・総合医療センター	後藤浩一先生	医療の質の向上及び効率化に向けた、肝移植手術におけるリスクモデルの作成とエビデンスの創設	2018/4/1～2019/3/31
3	東京大学	小池和彦先生	肝炎等克服実用化研究事業 「ウイルス性肝炎患者を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究」	2018/11/14～2019/3/31

(2)厚労科研

	委託者	監修	内容	委託期間
1	福島県立医科大学	丸橋繁先生	がんの医療提供体制および医療品質の国際比較:高齢者ががん医療の質向上に向けた医療体制の整備 (丸橋繁/消化器外科領域研究課題「NCD消化器外科領域とACS-NSQIPとの国際連携による外科医療の質向上に向けた医療体制の整備」との整合性を図る)	2018/4/1～2019/3/31
2	浜松医科大学	今野弘之先生	「質の高い消化器がん診療の均てん化を目指した、専門医制度の評価・育成プログラム構築システムの開発」におけるNCDデータ解析と専門医制度前向き評価プログラムの開発	2018/8/1～2019/3/31

(3)厚労省肝炎対策予算

	委託者	監修	内容	委託期間
1	東京大学	小池和彦先生	肝がん研究の推進及び肝がん患者等への支援のための最適な仕組みの構築を目指した研究	・事務代行 2018/8/15～2018/3/31 ・レジストリー構築 2018/7/18～2018/3/31

(4)JST

	委託者	監修	内容	委託期間
1	慶應義塾大学	宮田裕章先生	癌研リサーチコンプレックスにおける医療保険ICT基盤構築関わる支援業務委託	2018/4/1～2019/3/31

(5)厚労省臨床効果DB整備事業(H30医療施設運営費補助金)

	主体	監修	内容	期間
1	NCD	岩中督先生	「臓器別癌登録データベース基盤の構築(食道癌、肺癌、遺伝性乳癌卵巣癌等)」	2018/8～2019/3/31

学会名：日本消化器外科学会

発表年度	所属学会	発表の種別	発表題目	雑誌名・冊数	雑誌掲載年 - 掲載頁
2019	日本消化器外科学会	雑誌論文	Comparison of National Operative Mortality in Gastroenterological Surgery Using Web-based Prospective Data Entry Systems	Medicine (Baltimore)	2019 Dec;94(49):e2184.
2019	日本消化器外科学会	学会発表	Association between the participation of board-certified surgeons in gastroenterological surgery and operative mortality after esophageal gastroenterological procedures.	Surgery Today	May 2017, Volume 47, Issue 5, pp 611-616
2019	日本消化器外科学会	学会発表	Comparison of Short-Term Outcomes Between Open and Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer Using a Nationwide Database in Japan	Annals of Surgical Oncology	July 2017, Volume 24, Issue 7, pp 1821-1827
2019	日本消化器外科学会	学会発表	Validation of the board certification system for expert surgeons (esophageal-gastroenterologic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 1 - Hepatocystic of more than one segment	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	Volume23, Issue8 June 2018 Pages 313-323
2019	日本消化器外科学会	学会発表	Validation of the board certification system for expert surgeons (esophageal-gastroenterologic field) using the data of the National Clinical Database of Japan: part 2 - Pancreatobiliary	Journal Hepatobiliary Pancreat Sciences	Volume23, Issue8 June 2018 Pages 353-363
2019	日本内臓外科学会	学会発表	Higher incidence of pancreatic fistula in laparoscopic gastrectomy: Next-step inference from a nationwide prospective cohort study.	Gastric Cancer	January 2018, Volume 21, Issue 1, pp 168-170
2019	日本内臓外科学会	学会発表	Morbidity and mortality from a propensity score-matched, prospective cohort study of laparoscopic versus open total gastrectomy for gastric cancer: data from a nationwide web-based database	Surgical Endoscopy	June 2018, Volume 22, Issue 6, pp 2780-2779
2019	日本外科学会	学会発表	Effects of body mass index (BMI) on surgical outcomes: a nationwide survey using a Japanese web-based database	Surgery Today	October 2016, Volume 46, Issue 10, pp 1271-1278
2014	日本消化器外科学会	学会発表	外科的治療の標準化を促進し、手術に関する「プログラム」を構築する。第二回国際標準化会議の開催と成果	外科的治療の標準化	2016年4月号 11号 p.1181-1190
2014	日本消化器学会	学会発表	Impact of hospital volume on risk-adjusted mortality following esophagectomy in Japan.	British Journal of Surgery	2018 Dec 10(12):1880-1888
2014	日本消化器学会	学会発表	Surgical outcomes of laparoscopic distal gastrectomy compared to open distal gastrectomy: A retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Annals of gastroenterological surgery	2018 Jan 2(1): 55-64.
2014	日本消化器学会	学会発表	Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in cases of predoctoral retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	2018 Feb 8.
2014	日本消化器外科学会	学会発表	Comparison of laparoscopic major resection with propensity score adjusted open cases from the National Clinical Database in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	Volume23, Issue11 November 2018 Pages 721-734
2014	日本消化器学会	学会発表	Japan Pancreatic Cancer Registry of Japan Pancreas Society: Comparison between the conventional database and National Clinical Database (NCDB)	Pancreatology	August 2016/Volume 16, Issue 4, Supplement, Page 590
2014	日本消化器外科学会	学会発表	A comparison of the surgical mortality due to colorectal perforation at different hospitals with data from 10,090 cases in the Japanese National Clinical Database	Saotome	2017 Jan(69):261-618.
2016	日本消化器外科学会	学会発表	Validity and significance of 30-day mortality rate as a quality indicator for gastroenterological cancer surgery.	Annals of Gastroenterological Surgery	2018 Apr 18;22(2):1-10
2016	日本消化器学会	学会発表	Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,823 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system.	Gastric Cancer	2018 Oct 9.
2018	日本内臓外科学会	学会発表	Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer: A multicenter prospective cohort study	Gastric Cancer	2018 Dec 11.
2018	日本消化器外科学会	学会発表	"Real-time" risk models of postoperative morbidity and mortality for liver resections	Annals of Gastroenterological Surgery	- Received: 1 August 2018 - Revised: 28 August 2018 - Accepted: 14 September 2018
2017	日本消化器外科学会	学会発表	Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan	Surgery Today	- Received 07 August 2018 - Accepted: 16 October 2018 - First Online 07 November 2018
2017	日本消化器学会	学会発表	Our Minimally Invasive Esophagectomy Replaces Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Lower Analysis of 24,229 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database	Annals of Surgery	January 31, 2018 doi:10.1097/SLA.000000000000222
-	日本消化器外科学会	-	A risk model for esophagectomy using data of 8384 patients included in a Japanese nationwide web-based database.	Annals of Surgery	2014 Aug;202(2):238-46. doi: 10.1097/SLA.0000000000000644.
-	日本消化器外科学会	-	Total gastrectomy risk model: data from 23,011 Japanese patients in a nationwide internet-based database.	Annals of Surgery	2014 Dec;200(6):1234-8. doi: 10.1097/SLA.0000000000000781.
-	日本消化器外科学会	-	Risk Model for Distal Gastrectomy When Treating Gastric Cancer on the Basis of Data From 33,917 Japanese Patients Collected Using a Nationwide Web-based Data Entry System.	Annals of Surgery	2018 Aug;202(2):238-239. doi: 10.1097/SLA.0000000000001127.
-	日本消化器外科学会	-	Risk model for right hemicolectomy based on 18,070 Japanese patients in the National Clinical Database.	Journal of Gastroenterology	2014 Jun;49(7):1047-56. doi: 10.1007/s00535-013-0860-8. Epub 2014 Jul 27.
-	日本消化器外科学会	-	Morbidity after common mesal surgery in Japan: a study on low anterior resection from a newly established nationwide large-scale clinical database.	Diseases of the Colon & Rectum	2014 Sep;57(9):1078-81. doi: 10.1007/s00382-0000000000176.
-	日本消化器外科学会	-	Risk stratification of 7,232 hepatectomy cases in 2011 from the National Clinical Database for Japan.	Journal of the American College of Surgeons	2014 May;218(2):112-22. doi:10.1016/j.jamcollsurg.2013.11.007. Epub 2013 Nov 18.
-	日本消化器外科学会	-	A pancreatobiliary resection risk model derived from 8676 cases from a national single-site population (Japanese) using a web-based data entry system: the 30-day and in-hospital mortality rates for pancreatobiliary resections.	Annals of Surgery	2014 Apr;200(4):773-80. doi: 10.1097/SLA.0000000000000268.
-	日本消化器外科学会	-	Surgical risk model for acute cholecystitis perforation based on a Japanese nationwide database on initial report on the surgical and 30-day mortality.	Surgery Today	2018 Oct;48(10):1233-43. doi: 10.1007/s00398-014-1059-x. Epub: 2014 Sep 18.
-	日本消化器外科学会	-	National Clinical Database feedback implementation for quality improvement of cancer treatment in Japan: from good to great through transparency.	Surgery Today	2018 Jan;48(1):36-47. Epub 2018 Mar 26.
-	日本消化器外科学会	-	Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidity after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry.	Gastric Cancer	2017 Mar 11. doi:10.1007/s11012-017-0795-8. Epub ahead of print.
-	日本消化器外科学会	-	Modeling preoperative risk factors for potentially lethal morbidities after pancreatobiliary resection and risk evaluation for predicting postoperative complications: a retrospective study of 17,584 patients in Japan.	Gastric Cancer	2018 Aug 23. Epub ahead of print.
-	日本消化器外科学会	-	Risk assessment of morbidities after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan	Annals of Gastroenterological Surgery	Volume 2, 3:2018 May;2(2):20-28
-	日本消化器外科学会	-	Prediction model for complications after low anterior resection based on data from 32,411 Japanese patients included in the National Clinical Database.	Surgery	2017 Jan 30. doi: 10.1093/surg/kyw016. Epub ahead of print.
-	日本消化器外科学会	-	Model predicting the risks of ile ile-anastomosis morbidities and bills leakage in 14,970 hepatectomy patients registered in the National Clinical Database of Japan.	Medicine (Baltimore)	2018 Dec;94(49):e24498.
-	日本消化器外科学会	-	Risk factors of serious postoperative complications after pancreatobiliary resection and risk evaluation for predicting postoperative complications: a retrospective study of 17,584 patients in Japan.	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	2017 Feb 14. doi: 10.1002/jhps.438. Epub ahead of print.
-	日本消化器外科学会	-	Risk Models of Operative Morbidities in 18,530 Crutivity in Surgical Patients Based on a Japanese Nationwide Database.	Medicine (Baltimore)	2016 Jun;94(24):e1224. doi: 10.1097/MD.00000000000001824.

学会名：日本心臓血管外科手術データベース構築

発表年度	題目/題名	著者/発表者	研究内容	掲載誌/発表会	掲載誌/発表会 - 発表日
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	帆足 孝尚	ダウン症候群に伴う先天性心疾患に対する外科治療成績	Circulation Journal The Society of Thoracic Surgeons (STS) 53rd Annual Meeting 2017	2017 Sep 12. doi: 10.1253/circj.CJ-17-0483. Jan.2017;Houston, TX
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	橋本 力	左心機能障害におけるOPCABとOn-pump CABGの比較検討	第45回日本心臓血管外科学会学術総会 American Association for Thoracic Surgery (AATS) 96th Annual Meeting 2016 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016年2月 (京都) Apr.2016 Seattle, Washington 2016 Apr.15(4):1092-6.
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	藤原 孝	大動脈弁置換術後の全脳灌漑	第43回日本心臓血管外科学会学術総会 第58回 関西胸部外科学会学術大会	2016年5月 (神楽川) 2016年6月 (岡山)
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	黒川 隆	大動脈ステントグラフト-挿入後の大動脈瘤増大の検討	第45回日本心臓血管外科学会学術総会 The Annals of Thoracic Surgery	2016年5月 (広島) 2018 May;105(5):1592-1596. doi
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	藤原 孝	非腫瘍弁手術における心臓腫瘍に対する外科的治療成績の検討	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2017 May 23. doi: 10.1007/s11748-017-0735-z
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	大北 裕	胸壁大動脈瘤手術における慢性閉塞性肺疾患の影響	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Apr 15(14):781-786.
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	夜久 均	開心臓後の大動脈狭窄症に対する大動脈弁置換術の成績および手術リスク因子の検討	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Feb 15(12):347-353
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	橋本 力	知能型インターベンション装置が冠動脈バイパス手術の手術成績に与える影響の検討	第68回日本胸外科学会学術大会 The Society of Thoracic Surgeons (STS) 52nd Annual Meeting The Annals of Thoracic Surgery	2016年10月 (神戸) 2016; Phoenix, Arizona 2017 Jul;104(1):56-61
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	夜久 均	OFF-PUMP CABGと ON-PUMP CABGの術後早期成績の比較	29th European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting	Oct.2015,Amsterdam, The Netherlands
2014	日本心臓血管外科手術データベース構築	佐々木 啓明	慢性腎不全病態におけるオフポンプ冠動脈バイパス術の有効性の検討	第48回日本心臓血管外科学会学術総会 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016年2月 (名古屋) 2016 Apr 12. pii: S0022-6229(16)30694-6
2015	日本心臓血管外科手術データベース構築	斎田 裕幸	薬物療法の効果における使用成績評価の質及び信頼性の確保のための要件等に關する研究 (厚生労働科学研究委託課題)	32nd International Conference on Pharmacovigilance and Therapeutic Risk Management	Aug.2016;Dublin, Ireland
2015	日本心臓血管外科手術データベース構築	佐々木 啓明	心臓血管外科手術における出血量の予測因子について	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia	2017 Oct 13. pii: S1053-0770(17)30802-9
2015	日本心臓血管外科手術データベース構築	坂野 真	Impact of Body Mass Index and Albumin on Morbidity and Mortality after Cardiac Cardiac Surgery in Geriatric Patients	第30回日本冠動脈学会学術大会 American Heart Association (AHA) 2017	2016年12月 (東京) Nov.2017;Anaheim, California
2015	日本心臓血管外科手術データベース構築	須田 雅夫	慢性肺病変に対する外科治療の日本の現状	Circulation Journal	2018 Jun 27. doi 10.1253/circj.CJ-18-0371.
2015	日本心臓血管外科手術データベース構築	杉本 勇一	開心臓における閉塞弁置換術の遠隔症候群の検討	81st European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting. Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	Oct.2017;Vienna, Austria 2018 Dec 1;27(8):985-900
2016	日本心臓血管外科手術データベース構築	須田 了	心臓中隔欠損症に対して広く行われている外科的治療に際して、術後経過改善への影響を検討する	American Heart Association (AHA) 2018	Nov. 10, 2018
2016	日本心臓血管外科手術データベース構築	坂口 元一	心臓中隔欠損症中隔穿孔の再発予防の検討	第47回日本心臓血管外科学会学術総会	2017年2月 (東京)
2016	日本心臓血管外科手術データベース構築	徳田 剛之	本邦における大動脈弁手術における患者背景の推移と手術成績の解析	第71回日本胸外科学会学術大会	2018年10月 (東京)
2016	日本心臓血管外科手術データベース構築	新田 善	Surveillance of AF Surgery in Asia-pacific Region	9th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2016	Oct.2016, Seoul
2017	日本心臓血管外科手術データベース構築	橋本 力	オフポンプ冠動脈バイパス術における術中コンバージョンのリスク解析	American Association for Thoracic Surgery (AATS) 96th Annual Meeting	Toronto, Canada 2019
2017	日本心臓血管外科手術データベース構築	田村 寛	軽リスク大動脈弁置換術後の成績と施設差の検討		
2017	日本心臓血管外科手術データベース構築	西 憲文	右小動脈閉塞弁手術の有効性及び安全性の検討 ～本邦におけるリスクファクターの解析～	第70回日本胸外科学会学術大会 第71回日本胸外科学会学術大会	2017年10月 (岡山) 2018年10月 (東京)
2017	日本心臓血管外科手術データベース構築	田村 寛	中等症及び軽リスク大動脈弁置換術後の成績と施設差の検討	American Association for Thoracic Surgery (AATS) 96th Annual Meeting	Toronto, Canada 2018

※本誌の掲載は各学会へお問い合わせください

学会名：日本小児外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	査読先・発表先	掲載媒体名称・発刊日	備考
2016 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2011-2012.	日本小児外科学会雑誌	52: 1350-1359, 2018	会員のみ閲覧可のためリンクは非掲載
2018 (掲載年)	日本小児外科学会	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会	日本小児外科学会データベース委員会：National Clinical Database (小児外科領域) Annual Report 2013-2014.	日本小児外科学会雑誌	54: 314-335, 2018	会員のみ閲覧可のためリンクは非掲載

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：日本呼吸器外科学会

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	査読先・発表先	掲載媒体名称・発刊日
	日本呼吸器外科学会	連絡候補	Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2018 Oct 18. doi: 10.1007/s11748-018-1022-y
	日本呼吸器外科学会	連絡候補	Model of lung cancer surgery risk derived from a Japanese nationwide web-based database of 78 594 patients during 2014-2015.	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	2017 Dec 1;52(6):1182-1189.

アニュアルの詳細は各学会へお問い合わせください

学会名：CVIT

申請年度	申請団体	研究代表者	研究内容	査読先・発表先	掲載媒体名称・発刊日
2016	日本心血管インターベンション治療学会	山地忠平	Relation of ST-Segment Elevation Myocardial Infarction to Daily Ambient Temperature and Air Pollutant Levels in a Japanese Nationwide Percutaneous Coronary Intervention Registry	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15;119(6):872-880.
2016	日本心血管インターベンション治療学会	沼澤洋平	Comparison of Outcomes of Women Versus Men with Non-ST-elevation Acute Coronary Syndromes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention (from the Japanese Nationwide Registry).	The American Journal of Cardiology	2017 Mar 15;119(6):826-831.
2016	日本心血管インターベンション治療学会	坂倉雄一	Incidence and Determinants of Complications in Rotational Atherectomy: Insights From the National Clinical Data (I-PCI Registry)	Circulation: Cardiovascular Interventions	2016 Nov;9(11). pii: e004278.

アニュアルの詳細は下記の学会HPよりご確認ください
URL: http://www.cvit.jp/registry/data_manager/

一般社団法人 National Clinical Database
2019 年度事業計画書

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て一般市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。本年度は、以下の社会事業を実施する。

（１）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- データ入力仕様の要望を加盟学会より受け付け、改訂を行い、収集データの改善を図る。
- ソフトウェア品質を確保しながら効率的な開発及び業務担当者間での共進化を図る。
- 登録症例データを利用した集計・分析結果を確認できるフィードバック機能を充実させる。
- 追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力率向上に寄与する。
- **DPC**・レセプトデータの収集し、医療の質や資源の利用実態を評価できる基盤を構築する。

（２）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 臓器別癌登録のデータベースを整備し、各種症例登録システムとの連携を図る。
- 内視鏡外科領域を各種症例登録システムへの展開を図る。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に提供し、医療品質の評価や改善に寄与する。
- 各領域の研究プロジェクト、学術調査、アニュアルレポートを通じて、臨床的検討を行う。
- 各領域での **Site-Visit** や **Web-Audit** におけるデータ検証等を支援する。
- 院内情報システムに **NCD** 症例アップロード機能の連動を図る。

（３）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度等と連携した各種申請システムの維持管理及び開発を継続的に行う。
- 質の高いデータ活用環境に向けて、データチェックのプログラム開発を継続的に行う。
- **NCD** 以外のデータベースとの突合可能性について検討する。
- 医療機器等の製造販売後データベース調査における信頼性担保に努める。
- **NCD** セミナー、各領域の学術総会、手順書作成などを通じて、業務連携に努める。

（４）法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 施設会費プランの検討、施設会員登録に関する周知活動等。
- セキュリティ保持、知的財産の管理、法・倫理的課題の解決。
- 科学的根拠のもとでの行政との意見交換。
- サーバリプレイス、データセンター運用条件の検討等。

以上